

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500016		
法人名	有限会社 さかがわ		
事業所名	グループホーム優海		
所在地	熊本県天草市御所浦町御所浦3916-6		
自己評価作成日	平成21年12月20日	評価結果市町村受理日	平成22年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成22年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

離島という難点はあるが、永年住み慣れた地域なので何の問題もなく過ごしている。利用者は、潮の香りや船の行き来する音、鳥の声などを聴きながらホームの基本理念ごとく『ゆとりある、ゆかいな生活のために・・・smil(笑顔で) slow(ゆっくりと) safet((安全に)生活されていると感じている。この自然な環境がこれからの生きる力や意欲となって生活できるように職員一同協力していこうと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境は入居者の自然治癒に活かされ、慣れ親しんだ職員・入居者と地域住民の温かい眼差しが一体となって、理念である“ゆとりある、ゆかいな生活”を実践している。離島である悪条件を逆手に取り、巧みに日常生活に取り入れ、時には小学校のマラソン大会の応援に出かけたり、小中学生や老人会との相互交流等積極的に地域の一人として展開している。職員の特技を活かした質の高いケアは身体機能低下防止、認知症進行防止となり、重度化・高齢化の中にあるにもかかわらず、入居者は畑仕事や料理等得意分野を自然に取り組み、職員の明るさが入居者の笑顔を引き出し、笑い声の絶えることの無いホームであり、家族からの信頼度も高く、入居者・職員の満面の笑みが日常の生業を表出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆとりある、ゆかいな生活のために」を理念とし、また、サブタイトルで「入居者間、職員間、地域とのコミュニケーションを図る」を目標に挙げ、毎日の朝礼で唱和し、確認する事によって笑顔の絶えない職場となっている。	ホームが目指していることを再確認し、理念である「ゆとりある ゆかいな生活のために」3S「Smile・Slow・Safety」を全職員が共感し、ケアに生かせるよう毎日の唱和やミーティングにより意思疎通を図っている。また、「入居者間・職員間・地域間とのコミュニケーションを図る」の目標のもと、全員で検証し今年度も同じ目標を掲げている。理念が十分に反映された温かみのあるケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には参加できるよう計画を立て地域との交流を深めている。また老人会の方々のボランティア、小学校より月1回の「たより」も配布していただきホーム内に掲示し、行事などの見学に参加できるように支援している。	開設時より地域への啓発が行届き、地域や小学校の行事に招待されたり、小学校からは毎月“たより”の配布や慰問等相互交流を図っている。地域住民との野菜の交換や近隣住民が散歩時に立ち寄りたり、ホーム側も掃除に参加する等地域の一員として積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の中にキャラバンメイトとしての登録があるので、地域の方々への認知症への理解、支援ができるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。消防署、警察、学校、民生委員、家族会代表の方々の参加により、貴重な意見、情報もあり、月に2回のミーティングで話し合いを行い、サービスの向上に行っている。	運営推進会議は2ヶ月毎と定例化し、行政・民生委員・中学校・小学校・家族の他、議題内容により消防署や警察からの参加のもと、現状・活動報告や意見交換を行っている。小学校も地域との交流を展開しており、ホームへの行事案内や学校便りの定期的な配布へとつながる等サービス向上に活かしている。	運営推進会議は小中学校との交流や地域との相互交流に一役を担い、委員からも好意的な意見が出されている。遠方の家族には議事録の送付によりホームのケアサービスに対する意識の周知とされることや今後も有意義な会議となるための一工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員には運営推進会議の参加をしていただいている。また入居申し込みなどの協力、情報交換も定期的に行い、敏速な対応、支援ができています。	地域包括センターから入居情報や地域高齢者の情報交換等連携を図り、支所との関係も良く、認定調査時の他、介護保険更新や外部評価報告書提出時等にホームの現状を発信し、権利擁護では社協に相談する等あらゆる行政との協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には安全を確保するためにセンサーを設置しているが、出入りは自由にできる。日常生活において身体的拘束は行っていない。また、心理的、性的虐待などは職員全員がしてはいけないものだと認識している。	身体拘束・虐待は“もともとはいけないもの”であると全員が認識し、マニュアルも整備している。玄関には音楽のセンサーを取り付けているが、近所の人たちも顔見知りであり声かけしてもらえる関係を築き、入居者個々の状況把握・所在確認により玄関や裏口・居室も開放し自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の勉強会は設けていないが、日頃の業務の中で「してはいけない」を合い言葉に支援している。」また、入居者の変化に対しても職員で話し合い良い支援ができるように行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加はできていないが、ご家族や地域の方に制度の利用をすすめるなどの啓発活動は行っている。ご家族の中には利用しておられた方もいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人、家族に理解が得られるように説明を行っている。また改定時には文章でお知らせしてご理解いただいている。また、不安・疑問に対してもご理解いただけるまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、家族の面会、電話など会話の内容、要望は記録ノートに記入して職員に申し送りを行っている。担当職員と本人、家族との関係も大切にゆっくり話せる時間をつくっている。	意見箱を玄関に設置しているが、家族の意見や要望は面会時や電話等で聞き取り、入居者個々にお便り帳を作成し、ホーム側・家族の要望等を記載し情報の共有化を図っている。家族会も設置しているが、今年度は新型インフルエンザにより代表者の承諾を得て中止している。家族から「行事を週末に開催してもらおうと参加できます。」との意見によりスケジュールを調整している。利用者とは日々の関わりや会話の中で拾い上げ希望を取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回の代表者を含めたミーティングを開催している。職員の要望、問題点等意見の交換を行い職員の意見を重視した話し合いの場を設けている。	代表者参加のミーティングにより、職員の要望や問題点等の意見交換を行い、トイレの手すり等が改善しており、職員の観察力を活かしている。また、外部研修は離島であり時間的な制限はあるものの交代で参加する等職員の向上心に配慮している。管理者も日々職員とのコミュニケーションに努め、希望による勤務シフトの調整や方向性の統一を図っており、定着した職員により明るいケアが実践されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営者からは会議の際に業績報告を行い、職員個々の努力実績を労っている。職員の家族状況や年齢等一人一人の状況を把握して無理なく就業できるように配慮している。研修への参加もできている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員が研修会に参加できるように情報の提供を行っている。また、各職員の力量にあわせ初心者むけの研修会参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や天草市グループホーム連絡協議会に参加して交流を図っている。管理者だけでなく代表者や職員も勉強会に参加してサービスの向上に努めている。また、他のグループホームの活動も学べる機会を設けている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の申し込みの時点で本人の状況が把握できるように居宅時のケアマネと連絡を取り合っている。また、サービス導入前は訪問して不安や要望を把握して安心して生活できる配慮をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族と面会して困っている事や不安・要望を把握するように努めている。必要時には面会を多くして解消できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が見学・来訪していただき、何を必要としているか、どんな支援が必要かを見極めている。また、他のサービス事業所の紹介や市の窓口、地域包括支援センターの情報を提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちを尊重して本人のできることは見守り、できない部分は本人の意思を尊重しながら支援するように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者、家族、ホームはお互いを必要としている関係だと思っているので、行事の時はもちろん誕生会や普段の面会も多くして絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会時に馴染みの方々にも来ていただき、ホームの行事に参加してもらい短い時間の中で楽しんでいただけるように支援している。また本人が知人宅に外出されることもある。	入居者全員が島民という馴染みの関係である。地元の行事への参加、個々の地区での敬老会や自宅での法要・知人宅へ出向いたり、社会性の継続として期日前投票へ出かける等、これまで築いてきた人・場所が途切れないように支援している。入居者個々の誕生日には家族や知人を招いたお祝い会を開催している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルはあるが職員が仲介に入ることで解決している。また、得意不得意を支え合いお互いが必要とされる生活の支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町内に在住の家族の方にお会いしたときには近況を尋ねたりしている。医療機関に入院された方に対しても、病院に出向いたとき等病室をたずねたりしている。退去時には本人、家族の不安を取り除けるように訪問等も心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で本人の希望、意向を把握できるように心がけている。本人の意思表示が困難な方に対しては担当職員とケアマネを中心に本人本位のケアができるように話し合いをしている。	日々の会話等関わりの中で思いや意向を把握し、発語困難者に対しては表情やしぐさで推察したり、担当職員・介護計画担当者を中心に話し合い、職員間で共有し日々のケアに活かすよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況を家族や担当ケアマネジャーに情報提供をして頂き把握できているが、家族も知らない面も多くあり知人などの面会等でも情報の収集をできるように努め、好きな歌、趣味等数多くの情報によりサービスの向上に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の活動内容、経過記録、健康チェック表により入居者の心身状態の把握ができ、よれによって入居者の心身の変化の早期発見に繋がられている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	遠方にいる家族が多いために、帰省時に意見を聞くように努力している。それを介護計画に反映できるようにしている。また、主治医とも現状の課題等を話し合い、本人の暮らしやすい生活ができるように計画している。	日々の職員の気づきや家族の意見や要望を入居者個々に「お便り帳」に記入し、毎月のミーティング時や緊急時には随時ミニカンフェレンスを開催している。担当職員による問題点の提示、主治医との話し合い等により、現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録や日誌にその日の状態や気付きを書き全職員が目を通して情報の共有をしている。また、担当職員を含め他の職員からの気付きも記録やミーティングで情報を提供してもらい、評価に繋がられるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	絵描きや台所作業、畑仕事等個別ケア中心にケアを行っている。その日、その時に応じて体調や機嫌もあるので臨機応変に対応できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で学校長や民生委員の方と交流して情報把握できているため、学校の行事に参加したり、町の祭りを見に行くなど地域な中で楽しく暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人・家族の希望を大切にしている。月に2回は協力医療機関から往診の形をとっているが、入居前から掛かっている病院に家族の協力もあり月1回の受診が継続できている方もいる。	本人・家族が希望を大切にしているが、島内にある診療所から2週間毎の往診対応であるが、入居前からの病院受診の継続もあり、家族での通院対応の入居者もいる。看護職員の配置もあり、日々の健康管理により早期発見に努め、協力医療機関である診療所との連携のもと、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は細やかに異常な気付きをホーム内の看護職に報告しているので適切な受診や看護が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はしばしば面会をして状態を把握したり、医療機関との情報交換を行いながら、早期退院に結び付けられるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針については事業所としての指針はできているので、必要時に同意書をいただくようにしている。入居時にご家族に確認をするが、再度、必要時に再確認をするようにしている。現在該当者はいない	重度化・看取りケア指針のもと、家族・主治医・ホーム側で話し合い、家族と同意書を交わし、看取り介護用経過記録として職員の気づいたこと・感じたことノートの作成や看取りプランのもと看取りケアに取り組んだケースがある。今後も三者で話し合い、主治医との連携により、家族の変化にも応えていく意向である。	終末期ケア経験が職員の介護力を高め、自信につながっている。家族は離島という問題から頻繁な訪問は難しいと思われ、入居者も高齢化が進んでおり訪問時や電話等により今後も継続して家族の意向把握に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練時に不安な応急手当の方法を聴き自信に繋げている。今後は年度計画に入れ実践力が身につけられるようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行ない地域住民、消防団とも合同訓練を行っている。また自動火災通報装置の設置にとまない入居者の安全確保に繋げている。	防災訓練は地域住民・消防団との総合訓練を年2回行い、自動火災通報装置の設置や停電の教訓から備品の充実を図っている。防災マニュアルも整備し、日々火元確認の徹底、備蓄も用意している。	総合訓練時には心肺蘇生を取り入れ、入居者個々の避難手段の説明も行っており、今後火災のみならず風水害に対する勉強会や運営推進会議の中で地域との協力体制の話合いを持たれることが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し言葉掛け、接し方、名前を呼ぶ時には「さん」付けで呼ぶように配慮している。また、訪室の際にはドアをノックするなど本人のプライバシーの保護に努めている。	職員は入居者一人ひとりに対し、尊敬の念を持って接している。入居者の話を時間を掛けて傾聴したり、個々の得意とする事柄を側で支えながら、入居者に自信とはりのある日々を提供している。入室のノック、トイレ誘導時の声かけ等プライバシーには十分な配慮で支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉掛けにより本人の意思、希望を聞ける雰囲気作りを行っている。自己決定の困難なかたに対しては言葉掛けにより表情観察を行い自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思、希望を尊重し食事、おやつ、入浴、就寝など本人のペースで生活できる雰囲気作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の選択などは本人に選んでいただいている。衣替えは家族の協力を得ている。理美容については定期的に訪問していただき整髪できるよう支援している。また、本人、家族の同意にて職員(免許有り)が理髪して整容に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できるだけ入居者の好みのメニューを取り入れるように心がけている。買物から調理、食事の準備、後片付け等職員と一緒にやっている。食事の時間もゆっくり食べられるような雰囲気作りをしている。	入居者の希望を取り入れ、1週間分の献立を作成しているが、1日のメニューの中に同じ食材を使用しないようバランスを考え、月1回は近隣施設の栄養士の立てた献立を利用している。買い物、調理、後片付け等職員と入居者が和気あいあいと取り組み、にぎやかに食事を取っている。手入れの行き届いた菜園は収穫を長く楽しむように時期をずらして苗を植える等工夫を凝らし、入居者の自慢となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量については毎日チェック表でチェックしており必要に応じては飲み物を変えたり、器を変えたりして水分量を増やす工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは習慣化できている。気分や状態によってはできない方もいるので、無理はせず時間を置いて誘ったり、本人ができるところで支援したりしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンの把握は排泄チェック表できている。レベル低下された入居者に対してもオムツ使用はしてもトイレで排泄できるように支援できている。	排泄チェック表により個々のパターンを把握し、声かけや誘導を行っている。入院先ではオムツ使用であった入居者に職員手製の尿とりパットによりトイレ感覚を引き戻し、自立へとつなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握とともに乳製品、食物繊維なども定期的に取り入れ提供している。散歩など運動制限のある方に対しては主治医に相談を行い適切な指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴ができるように提供している。入浴の拒否のある方については、無理をせず時間を掛けて誘ったりして入浴に時間をかけて楽しんでもらっている。	昼食後ゆっくりした時間帯に毎日入浴を支援しており、職員の声かけでほとんどの入居者が着替えを自身で準備し、ゆっくりのんびり楽しんでいる。夏場は畑仕事の後や発汗状況により随時シャワーで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動の内容や前日の睡眠状態は申し送り、記録などで把握できている。不穏等で眠れない入居者については主治医に相談をして眠剤の指示を得ている。睡眠状況を把握して日中の活動で生活リズムが作れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬ケースに薬の情報を貼り付けて用法や用量を確認しながら服薬支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しみ、趣味などの把握に努め入居者に合った支援ができています。意思の疎通がうまくできない方に対してはレクリエーションなどの参加により表情の変化の観察を行なうことによって支援できるようになった。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人に声かけて意思を確認して散歩やドライブ、買物などを行っている。車いすの人でもホームの駐車場でお茶を飲んだりして、近所の方と交流している。	散歩やドライブ、食材の買出し等日常的に外出している。又、近隣住民も自宅の庭に咲くさつきや桃の花の見学に誘ってくださったり、車椅子の入居者も駐車場で近隣住民との歓談、家族の訪問時に外出に出たり、家族との花見の会を開く等家族・地域との相互交流により、生き生きとした日常生活を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が購入したいものは本人の預かり金から支払いをしている。本人の希望によって小額のお小遣いを持つことで安心することもある。家族の理解を得ながら実施している。毎月、預かり金の収支報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人からの電話は本人が話をして楽しんでいる。声が聴き取りにくい時には本人の了解を得て職員が代わりに話し、その後内容を伝えるようにしている。手紙も遠方に在住の家族、知人の方からくることにもあり楽しみの一つとなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはソファを置き、日中殆どの入居者の方々が過ごされている。窓の外には花壇、畑もあるが迷い犬の「華」の存在が大きくセラピー犬として入居者の安らぎとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置を変えたり和室で(現在はコタツ)過ごしていただいたり、一人一人がくつろげる場所を提供できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自分の大事な物を置いたり馴染んでいるものを置くなどして居心地の良い部屋にして貰っている。	ベッド・クローゼットが備え付けら、内障子の居室は箆笥やテレビ・生活用品が持ち込まれ、家族写真を飾ったり、大事にしている人形等を置き、窓からは海が展望できる環境であり、入居者・家族の思い入れが表出し温かみのある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前には名札を掛けたり、目印をしたり、トイレには表示するなど本人がわかるように工夫している。		